

平成27年度宮古群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	60	40	20
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	10	20	40

(平成27年11月19日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.7	31.6	26.6	130.8	246.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

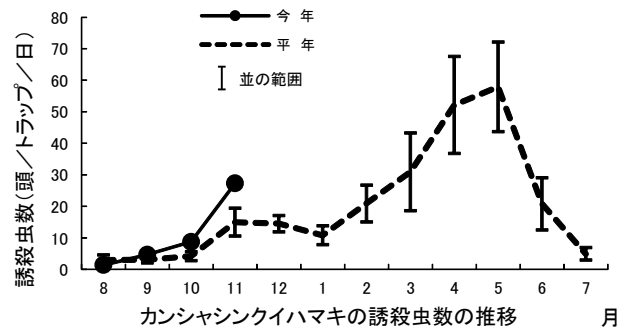
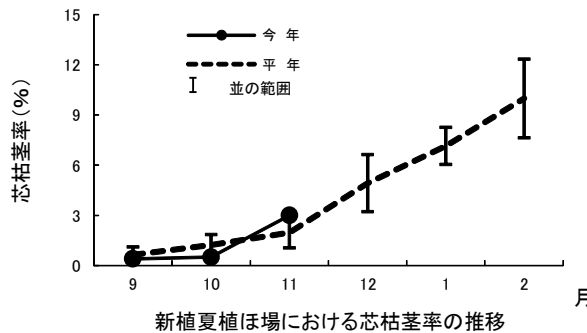
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は3.0%(前年3.1%、平年2.0%)と平年よりやや高かった。
- b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は27.2頭(前年8.1頭、平年15.0頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

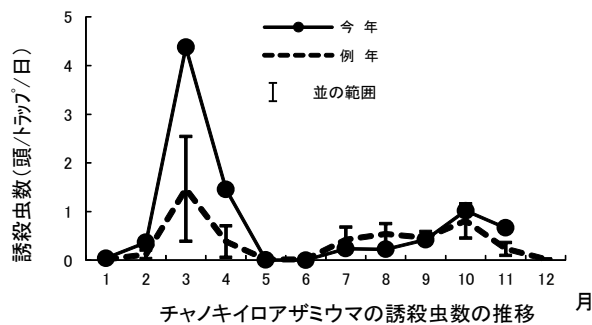
- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に葉液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成27年度病害虫発生予察注意報第1号(平成27年4月30日付)参照。

- イネヨトウの防除対策
 - a 11月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は3.0%(前年3.1%、平年2.0%)と平年よりやや高かった。
 - b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.4頭(前年3.5頭、例年2.2頭)と例年より少なかった。
 - c カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
 - d 平成27年度病害虫発生予察注意報第1号(平成27年4月30日付)参照。
- バッタ・イナゴ類の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部地域でタイワンツチイナゴによる食害が観察された。
 - b 発生源となるほ場及び周辺を除草を徹底する。
 - c 平成27年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成27年6月1日付)参照。

2 マンゴー

- (1) チャノキイロアザミウマ
発生程度 : 多
予報の根拠

- a 11月下旬の調査の結果、一部施設で多発した。
- b 黄色粘着トラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.7頭(前年0.2頭、例年0.2頭)と例年より高かった。
- c 気象予報によると、12月の前半は平年よりも気温が高くなると予想されており、チャノキイロアザミウマの発生源である新梢が発生する可能性がある。



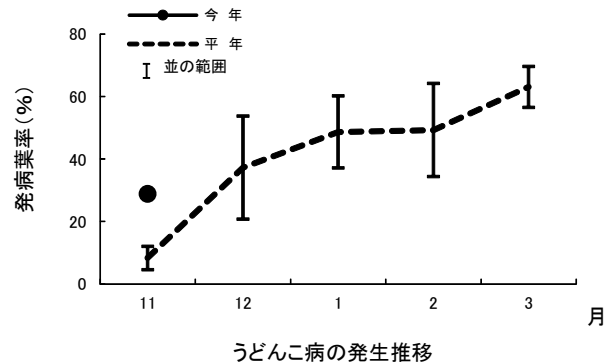
<防除上注意すべき事項>

- a 不用な新葉は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
 - b 新梢をよく観察し、初期防除に努める。
 - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
 - e 平成27年度病害虫発生予報第5号(平成27年7月27日付)コラム参照。
- ハダニ類の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、ハダニ類の葉あたり成虫数は1.2頭(前年1.5頭未満、平年0.6頭)と平年よりやや多かったが、一部施設に限られた。
 - b 夏から秋にかけて発生が多くなるため、発生が見られる場合は薬剤による防除を行う。
 - c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 カボチャ

- (1) うどんこ病
発生程度 : 多
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は28.8% (前年15.8%、平年8.3%)と平年より高かったが、一部ほ場で多発した。



<防除上注意すべき事項>

- 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- 着果後は防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。

○ モザイク病の防除対策

- 11月下旬の調査の結果、一部ほ場で多発生した。
- 媒介虫であるアブラムシ類の有翅虫が一部ほ場で観察された。
- ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- 発病株は発生源となるので、みつけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- 収穫後の残さは発生源となるので速やかに片づける。
- 平成27年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成27年11月30日付)参照。